

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	ホルトホール大分みらい共同事業体 代表構成員 日本管財株式会社九州本部	
施 設 名	ホルトホール大分 市民ホール	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	2,108	(千円)
公 演 事 業		(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業	2,108	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ホルト季節のプログラム	平成30年 4月28日(土)、 6月23日(土)、 12月23日(日)、 平成31年 2月24日(日)	・新緑コンサート 【出演者】ジュゼッペ ノヴァ (Fl)、土師さおり (pf/通訳) ・0才からOK!親子で楽しむコンサート 【出演者】川瀬麻由美 (Vn) 桐朋学園大学卒・大分県立芸術文化短期大学教授 / 芸短ストリングアンサンブル 他 ・ジングルベルコンサート 「4人の奏者が奏でる ～2台ピアノの響宴～」 【出演者】藤澤菜那、小町美佳、吉元優喜乃、井手沙耶花 ・ホルト朗読会 「ふるさとの作家の作品を読む」 【出演者】林幸男 (グループO.G.代表)、溝邊恵 (あめんぼ代表)、匹田一枝 (白いぼうし代表)、刀祢優月 (大分県立大分舞鶴高等学校)、津留もな実 (大分県立大分舞鶴高等学校)、橋本由紀 (大分県立大分舞鶴高等学校)、富田典保 (NHK大分放送局)	目標値	650
		小ホール		実績値	1,038
2	防災フェスタ2018 予防・防災と避難訓練コンサート	平成30年8月14日(火)	【出演者】 講演：大分市防災危機管理課 演奏：朝来桂一、小寺里奈、中谷政文 講評：大分市消防局 予防査察担当班 【協力】自衛隊大分地方協力本部・大分県警察・大分中央消防署・大分市防災危機管理課・日本乾溜工業株式会社・損害保険代理業協会	目標値	500
		大小ホール、エントランス、キッチンスタジオ		実績値	868
3	第3回 ホルトホール大分 高校演劇グランプリ	平成30年 11月3日(土)、 4日(日)、 平成31年 2月11日(月・祝)	県内高校演劇部10校	目標値	1,000
		大小ホール		実績値	1,952
4	ロクディム	平成30年11月22日(木)、23日(金・祝)	【出演者】ロクディム、小西真理、工藤佑樹丸	目標値	260
		小ホール		実績値	333
5	新春ホルトホール寄席	平成31年1月14日(月・祝)	【出演者】春風亭三朝、柳亭燕路、笑福亭鶴笑、林家楽一	目標値	150
		小ホール		実績値	209
6	瀧廉太郎・吉丸一昌メモリアル・コンサート	平成30年6月29日(金)	【出演者】宮本 修、可兒敦彦、行天正恭、愛甲久美、林 満理子、新見準平、徳永 葵、足達亮子	目標値	150
		小ホール		実績値	238
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,710
				実績値	4,638

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

ホルトホール大分の社会的役割として、街の中心となる複合施設であることが挙げられます。文化・教育・福祉・健康・産業・情報・交流の多機能連携型複合文化交流施設として建設された当館は、他県からの視察も多く、評価も高い。また、様々な施設からの情報もいただくことが多く、知りえた情報を市民の皆様へ公開することで、情報発信拠点として運営しています。

小ホールは、当館建設時には市民の皆様からのご要望で、平土間形式／ホール形式を用途に合わせて変更できる構造で、利便性がよく、多くのご利用者様にご利用いただいております。大ホールも、大分市の中心となりますJR大分駅から客席まで大きな段差がなく、車いすに乗ったまま移動可能な完全バリアフリー仕様であることも、利便性が良いと言われるポイントの1つとなっています。

文化芸術の発信としては、多くの方が集まりやすい特性を活かし、どなたでも参加でき楽しめるものを企画しています。市民の皆様から、質の良い舞台芸術を開催してほしい、チケット代などの負担を少なくしてほしいとのご要望も多く、県内で活動されている演奏者を中心に協力いただき、無料、もしくは低額でのコンサートや演劇を公演してまいりました（季節のプログラム、滝廉太郎メモリアル・コンサート、ホルトホール寄席、ロクディム）。同時に県出身の舞台芸術家に活動の場を提供し、市民に知っていただく機会を創出しております（高校演劇グランプリ、ホルト朗読会）。またその中に防災への啓発運動を行うことで防災意識の向上に貢献するなど、当館ならではの方法で市民の皆様へ様々な情報を発信してまいりました（防災フェスタ）。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

対象となる6つの事業の総定員4,922名に対し、4,638名の方にご来場いただきました。ほぼ満席に近い結果となり、多くの市民の皆様へ文化・芸術に触れる機会を創出することが出来たと感じています。本事業の目的に、地元アーティストに活動の場を提供することと、市民の皆様へ気軽に文化・芸術に触れていただく機会を創出することが挙げられますが、まだまだ市民にあまり知られていない地元アーティストは数多く存在し、また、様々な文化・芸術に安価で触れられる機会を求める市民の皆様もたくさんいらっしゃいます。公共施設の役割として、そのご要望に可能な限り対応したく、引き続き開催していきたいと考えています。

現在、新しく公演できる場所を増やすための館内ルールの変更を検討しており、ホール以外でも音出し催事を開催できるように調整している状況です。これにより、より多くの来場者の方が気軽に公演に触れる、公演情報をアーティストから直接知りえる機会が創出できると考えています。特に有料公演についてはまだまだ売れ残ることが多いため、公演の宣伝としてミニコンサートなどをエントランスなどのオープンスペースで開催することで、販促向上に繋がることを期待しています。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 【目標】

- ①多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する。
- ②芸術文化活動中の団体・個人を支援する目的で、活動の発表の場を提供する。
- ③県外で活躍している芸術文化団体・個人を誘致し、購入しやすい価格で公演する。
- ④障がい者やひとり親家庭の方が気軽に楽しめるよう、一部公演に招待する。
- ⑤市内の小中学校や高校に演者を派遣し、実演芸術を体験してもらうワークショップを開催する。

#### 【指標】

##### ①来場者数による判断

→これまでも、特に音楽系の無料コンサートは好評で、概ね満員となっている。これからも市民の皆様に見たいと思っていただけるような企画を検討し続ける必要がある。その反面、入れない方も増えており、公演回数を増加したり、広いホールで開催するなど検討していく。

⇒目標2,710名に対し、来場者4,438名の結果となりました。定員4,922名のところ、ほぼ満席となり、市民の皆様に興味を持っていただける公演内容、広報だったのではないかと感じております。

(資料1 来場者一覧)

##### ②出演者数

→発表したい団体や個人は市内にまだまだ存在する。H30年度はピアニストや朗読会の出演者に声掛けし発表の場を提供する。

⇒平成30年度は31名の個人、14団体の方にご出演いただきました。(資料2 出演者リスト)

##### ③チケットの販売枚数や来場者数

→寄席やロクディムでは県外で活躍されている大分県出身の方を誘致しての公演を予定している。通常の公演時の価格よりも低く、お求めやすい価格に設定する。

⇒他会場でのチケット販売価格が3,500円のところ、大分会場では1,500円で、市民の皆様がより安価で購入しやすい販売価格とすることができました。

##### ④障がい者・ひとり親家庭の来場者数

→なかなか会場に来られない障がい者やひとり親家庭の方を対象に、一部の催事では招待枠を設ける。

⇒申し込み用紙をスタッフの付き添いが必要な方でも申し込めるように作成し、実際に身体障害者、知的障害者の方にご参加いただきました。(資料3 実際の申し込み用紙)

##### ⑤派遣先の学校でのワークショップ参加者数

→館から飛び出してのワークショップは初の試みであるが、既に来てほしいとの声をいくつかの学校からいただいている。日数が限られている為、全ての学校に赴くことは困難だが、結果次第では来年度以降も継続したい。

⇒小中高大学にてワークショップを開催し、多くの学生に体験していただくことができました。(資料4 WS参加者リスト)

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

当初の事業期間と実際の事業期間は特に変更なく、予定通り開催できました。

本年度自主事業は以下のスケジュールで実施されました。

実施事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新緑コンサート	191											
0才からOK! 親子で楽しむコンサート			480									
ジングルベルコンサート									221			
ホルト朗読会											146	
防災フェスタ					868							
高校演劇グランプリ								1751			201	
ロクディム								333				
ホルトホール寄席										209		
瀧廉太郎・吉丸一昌 メモリアル・コンサート			238									

ほぼひと月毎の開催が実現した。いつも新鮮で刺激を味わえ、市民で賑わうホールを目指す。また、夏休みや文化祭の時期には子供が多く参加できる事業を計画し、入場者数も多くなっている。  
情報の解禁時期については、市報をベースに広く周知し、そこから広報活動を開始。

出演者が事前に学校や施設に伺ってワークショップを行ったり、別の事業にゲスト出演するなど、互いの観客を増やしたり、家族や知り合いが公演を見に来るといった良い連鎖を生んでいる。また事前に動画コンテンツを作成したり、出演者と商店街を回ることで、直に魅力を伝えたりと、馴染みのないジャンル公演は広報でも様々な試みを行った。結果、ロコミやソーシャルネットワークにより、情報が拡散されたことで、公演の集客、更に地域の情報までを発信でき相乗効果が期待された。（資料5 動画コンテンツ URL）

独奏、室内楽、連弾、朗読、演劇、インプロ、伝統芸能（落語）、舞台芸術の特定の分野ではなく、幅広い趣向の観客へ、幅広い鑑賞の機会を提供。また無料や安価なチケットで気軽に聴くことができる補助公演のおかげで、ほとんどの事業が満席となりました。また親子コンサートのように、乳幼児でも入場可能な事業を設けるなど、気軽に来場できる工夫をおこなった。

収支について、当初予算5,575千円のところ、実質5,073千円となりました。運搬費が予定よりも下回ったこと、出演費や旅費を抑えることができ、経費削減に繋がりました。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当館のミッションとして、人材育成と情報発信が挙げられます。

当館主催で行う自主事業については、主に地元出身者や地元で活動しているアーティストに発表できる場を提供し、多くの市民に知っていただくことで、今後の活動を応援する環境づくりの手助けをすること、また、地元アーティストを市民の皆様を知っていただき、身近でも質の良い芸術に触れる機会があることを知っていただくことが目的となっています。

コンサート当日には無料で配布するプログラムに他会場で行う公演情報や他のアーティストの公演情報を挟み込み、様々な場所で開催される公演情報を、ご来場いただいた市民の皆様にご提供することで、情報発信拠点として機能しています。より多くの文化芸術に触れることは、出演者を育成するとともに、観客（サポーター）育成にもなり、結果的に劇場ファンを増やし、大分の文化芸術を盛り上げることに繋がります。

舞台の使いやすさも大きな特徴で、どのような魅せ方をしたいのかでホール形状を変えられる小ホールや、車椅子でも移動がスムーズな大ホールの完全バリアフリーにより、ホール演出に広がりを持たせられます。また、現在、大ホールと小ホールの2つのホールを繋ぐエントランスホールの利用条件を見直ししており、この空間を利用することで今までできなかった演出や広報活動が可能となり、ホールの利便性向上と集客増員が見込めると期待しています。

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

公演毎にアンケートを実施、またウェブサイトやソーシャルネットワークを利用した情報発信、意見の収集によりニーズを把握・分析し、企画に活かしています。また劇場への関心、来場のきっかけ、スケジュール管理など、地域の特性を考慮した広報を行わなければ、集客にはなかなか繋がらないことも解りました。しかし立地、交通機関の利便性はかなり良いことから、情報発信を魅力的に行い、来館のきっかけを与えることで、集客は見込めます。

また舞台芸術をおこなっている同様の施設との連携により、互いに回遊できる仕組みを作ったり、連携事業を開催したりと、それぞれの特性を活かした地域ネットワーク体制を構築していく必要があります。（資料7 近隣連携施設（事業・広報））

特に2018年度は大分県で国民文化祭が開催されたこともあり、以下のような連携企画を開催し、当館だけでなく広範囲にわたっての賑わい創出に貢献しました。

- ・宝のまち・豊後FUNAI芸術祭（コンパルホール、平和市民公園能楽堂 と連携）
- ・日本劇作家大会2019大分大会（JR大分シティ、iichiko総合文化センター、コンパルホール、平和市民公園能楽堂、トキハ会館、azito と連携）
- ・クレオール・ニッポンの旅 松田美緒コンサート（平和市民公園能楽堂 と連携）

宝のまち・豊後FUNAI芸術祭は市民参加型の催事が多く、当館でも出場団体を選考して決めるなど、参加希望者が年々増えている結果となり、市民団体の貴重な活動の場となっています。

日本劇作家大会2019大分大会は劇作家や俳優など舞台関係者の講演やワークショップが中心の大会でしたが、大会終了後に複数の市民から脚本を作って舞台化したいとの相談や活動報告をいただき、大分での演劇活動に何かしらの潤滑剤になったと感じています。

クレオール・ニッポンの旅 松田美緒コンサートは地元大分に受け継がれていた歌を掘り起こし、現代に伝えるためアレンジした楽曲を歌い上げるコンサートで、既に活動に共感していただいた方と一緒に2019年度にもコンサートを開催することが決まっており、活動の幅が広がっています。

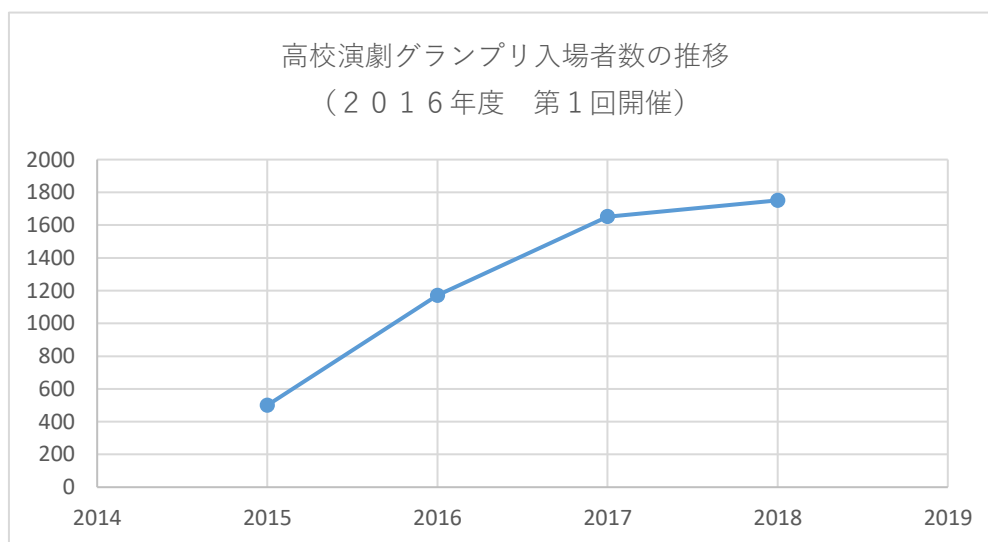
## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

#### 【高等学校文化連盟との連携】

教育機関との連携により、高校演劇の県大会をホール主催で継続的に開催できる場が整ってきました。今回で3年目を迎え、集客は年々増加しております。ホール主催でなかった3年前と比べると集客は劇的に変わったと言えます。今後も継続的に開催し、関係者のみならず、劇場ファンを増加させたい。（資料6 来場者数についての原稿）



#### 【大学との連携】

また大学との連携により、舞台のバックヤードを体験できる授業も開催できるようになりました。舞台上立つ人や裏方に興味をもっていただき、未来の舞台人育成に貢献したい。



#### 【館外連携やスタッフ研修によるスキルアップ】

近隣の同施設との連携により、互いに情報共有をしたり、広報協力をおこなったりしている。またスキル向上のための研修に参加するなどスタッフ・ボランティアの育成にも取り組んでいます。

#### 【継続していくための予算確保】

事業予算や自社負担金では、事業のクオリティに限界があります。足りない部分を補う工夫をしながらも、助成金に頼らざるを得ない状況であります。地元のアーティストや業者であっても、活性化・発展のためにはどうにかして予算調達を行う必要があります。